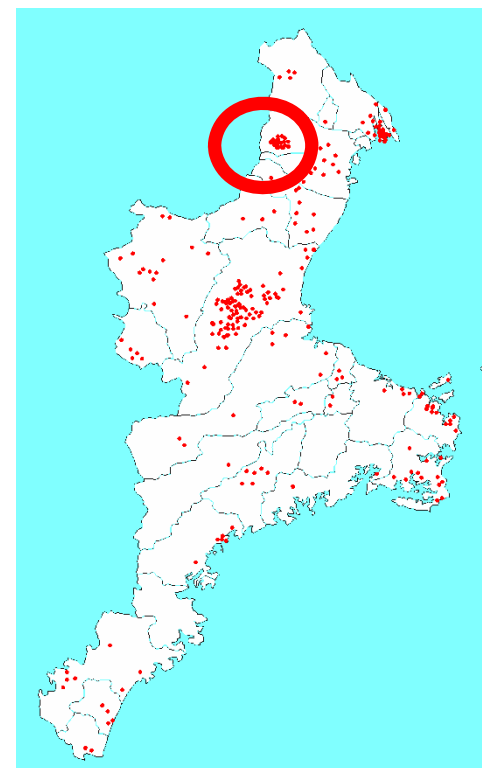


健康と温泉フォーラム第75回月例研究会
平成29年11月28日(火) 13:30~16:45 東京文化会館 4階会議室

三重県における 温泉地の療養効果の科学的な把握

三重県保健環境研究所 衛生研究課
主査研究員 森 康則



1. 温泉地ウォーキングに伴う健康感調査

●研究協力者

●54名(平均 65.3歳 男性24名 女性30名)

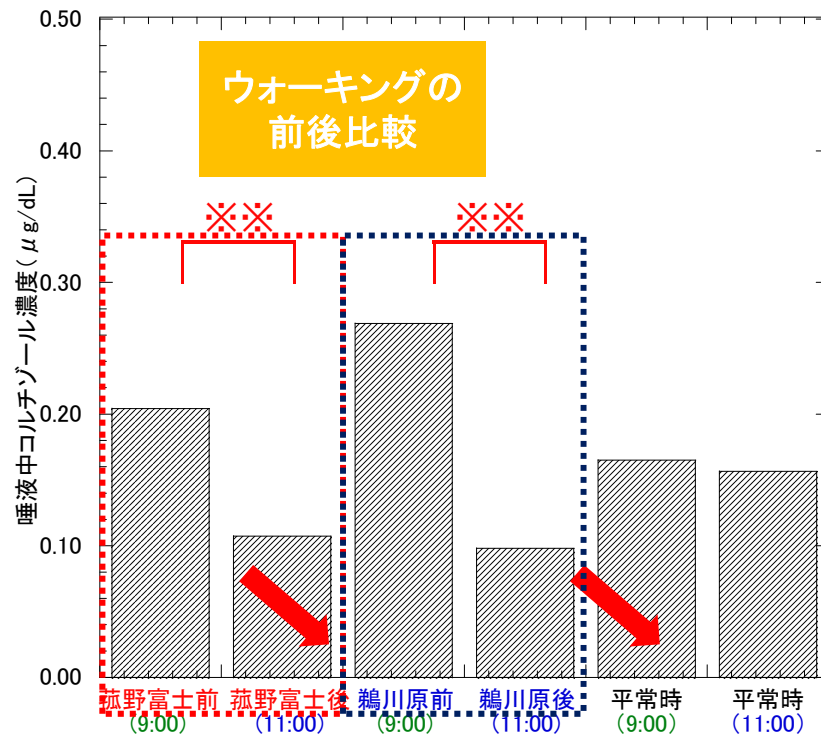
●測定項目

●唾液中コルチゾール

●感情尺度評価

MCL-S.2 (Mood Check List-short form.2)

VAS(Visual Analog Scale)法 10項目



本研究により以下の点が明らかになった。

- コルチゾール濃度の低下(リラックス感向上)
- 感情スコアの改善
- 温泉地コースの方がよりその効果大きい

2. 温泉の特徴を活かした温泉浴(熱気浴)の作用

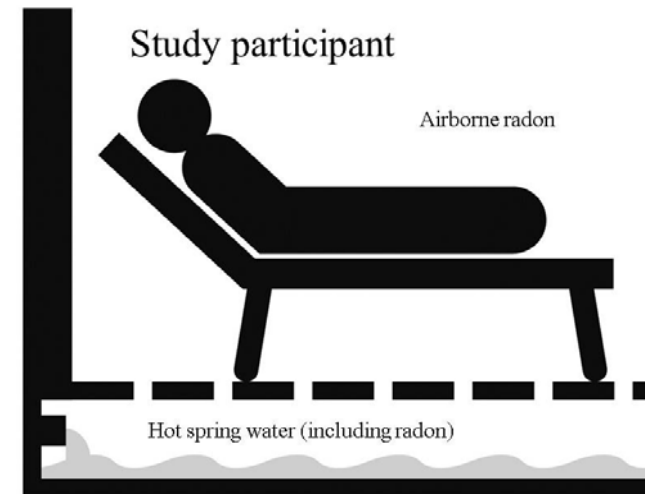
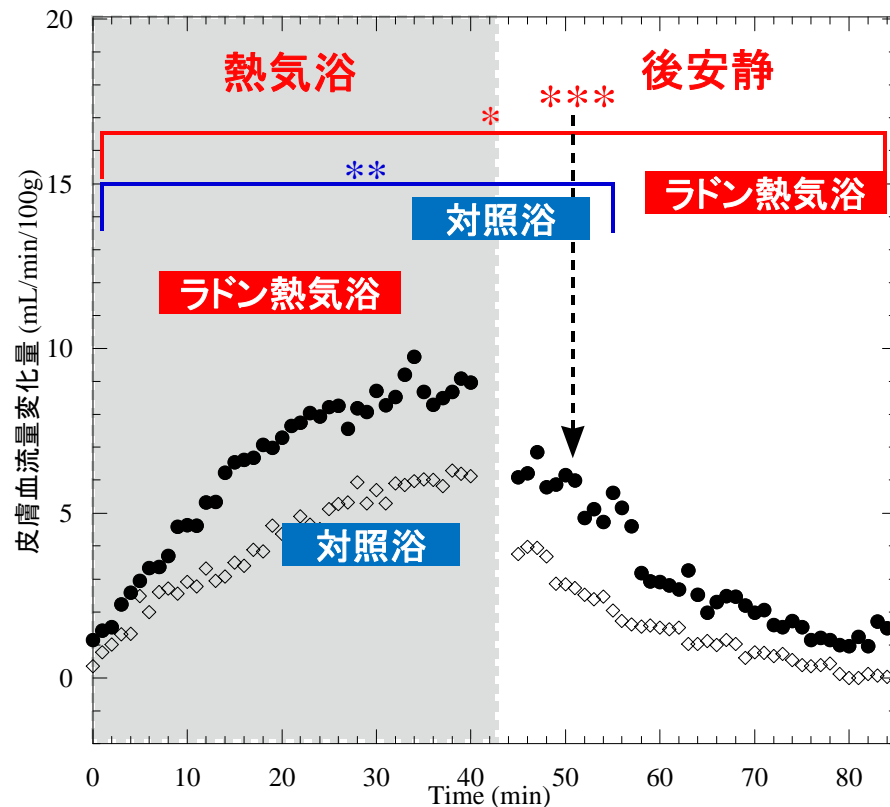
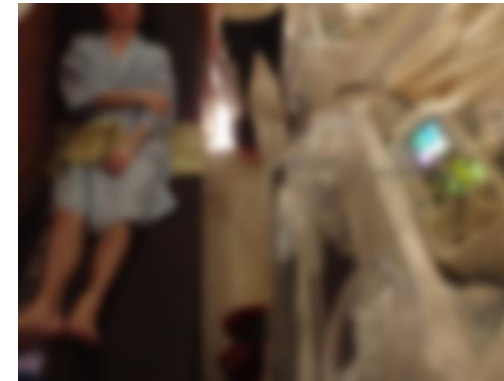
●研究協力者

- 健常若年男性 8名 (平均28.0歳)

●介入

40分間の低温熱気浴(サウナ浴 38°C)

- ラドン熱気浴(空气中ラドン 約700Bq/m³)
- 通常の熱気浴(control) 単盲検



放射能泉を用いた熱気浴による**血行促進の持続効果**と、**身体の冷えやストレス感の低下**をもたらす可能性が示唆された。

共同研究

(共同研究契約の締結)

菰野町
(事業実施主体)
事業全体の意思決定

立案・設計
委託契約

調査協力
技術支援
助言・報告

調査協力
技術支援
助言

調査依頼

三重県保健環境研究所

共同研究の実施

調査対象

愛知医療学院短期大学

調査対象

小山田記念温泉病院

温泉地・
温泉事業者

調査依頼
調査対象



研究を終えて

- ・療養効果のエビデンスを得ようとする研究は、臨床研究に相当するため、**医師や臨床研究を実施する能力のある研究者**の介在が不可欠。
- ・また、研究に機器を使用する場合には、**大学等の研究機関**との協力も必要になる。
- ・また、温泉地の療養効果の把握のためには、少なくとも**自治体、事業者、温泉協会等**が協力的かつ一体的でないと、研究が前に進まない。
- ・**研究費**の提供者が必要。
- ・研究成果が得られた後は、その結果を広報等により、地域に**アナウンスする仕組み**が必要。加えて、その研究成果が誤った方向で使われないよう、継続的に相互に注視していく必要がある。